

# メロウ・ソサエティ構想の推進について

相楽 希美

## 1. メロウ・ソサエティ構想とは

日本では世界に類を見ない急激な高齢化が進み、21世紀初頭には世界で最も高齢化が進んだ社会が到来すると予測されている。そのため、わが国における高齢化社会対策は喫緊の課題であり、90年代の早いうちから幅広い英知を結集し対応策を実行に移していかなければならない。

一方で、今世紀の情報・電子技術の発達はめざましいものがあり、さまざまな分野で情報化が進展している。われわれが夢見る未来の情報環境についても、多くのことが技術的には可能になった。

このような背景のもとに通商産業省では、情報システムが人々の生活にとけ込み、高齢化にかかわる諸問題と情報化による対応がうまく連携し合っている、ゆとりある豊かな高齢化社会の実現をめざす「メロウ・ソサエティ構想」を推進している。(図1)

## 2. メロウ・ソサエティ構想の経緯および現状

### (1) 平成元年度

機械情報産業局長の私的懇談会として、慶応義塾大学の石井威望教授を座長とする「メロウ・ソサエティ懇談会」を設け、高齢者の積極的な社会参加を支援し、ゆとり豊かな高齢化社会を創造するための検討を行なった。平成2年1月にまとめられた同懇談会の中間報告を受けメロウ・ソサエティ構想の民間推進母体として「メロウ・ソサエティ・フォーラム」が企業および地方公共団体等の賛同を得て平成2年2月に設立された。

### (2) 平成2年度

メロウ・ソサエティ・フォーラムにおいて、専門部会を開催し、理想的な高齢化社会のあり方に関するより幅

広い総合的調査研究を行なうとともに、海外調査団を派遣し、欧米の高齢化社会対策に関する情報収集を行なった。その検討結果から、

- ① 中高年からの人生設計の充実
- ② 中高年からの就労環境の整備
- ③ 多様な学習機会の創出
- ④ コミュニケーションの円滑化
- ⑤ 健康に関する不安の軽減
- ⑥ 生活環境の整備

の6つの柱による基本コンセプトの策定、解決すべき課題の抽出、および必要とされる社会・情報システムについての提言を、「メロウ・ソサエティ構想—中間報告—」として平成3年3月にとりまとめた。

### (3) 平成3年度

前年度の中間報告書で提言された情報システムのうち以下の6つのテーマについて分科会を設け、FS(フィージビリティ)調査を行なっているところである。

- ① 人生設計支援情報システム
- ② 個人健康情報ファイリングシステム
- ③ フレックスワークスタイル支援情報システム
- ④ 中高年向け快適住環境支援システム
- ⑤ 人材・知識データベース
- ⑥ マルチメディア技術を利用した世代間コミュニケーション円滑化支援システム(ハイパー風土記)

### (4) 平成4年度以降

これらの調査研究の結果にもとづき、21世紀の理想的な高齢化社会の実現に向けて、省内体制を整え社会制度改革にかかわる提言を行なってゆくとともに、高齢者にやさしいインタフェースの調査研究、必要な情報システムの構築等を行なっていく。

## 3. 今後のメロウ・ソサエティ構想の具体的推進

今後は、省内の高齢化社会対策推進のための体制づくりと連携しつつ、インタフェース、健康、地域展開を3つの柱とした円熟社会支援情報システムの開発、高齢化

さから のぞみ 通商産業省機械情報産業局情報処理システム開発課

〒100 千代田区霞が関1-3-1

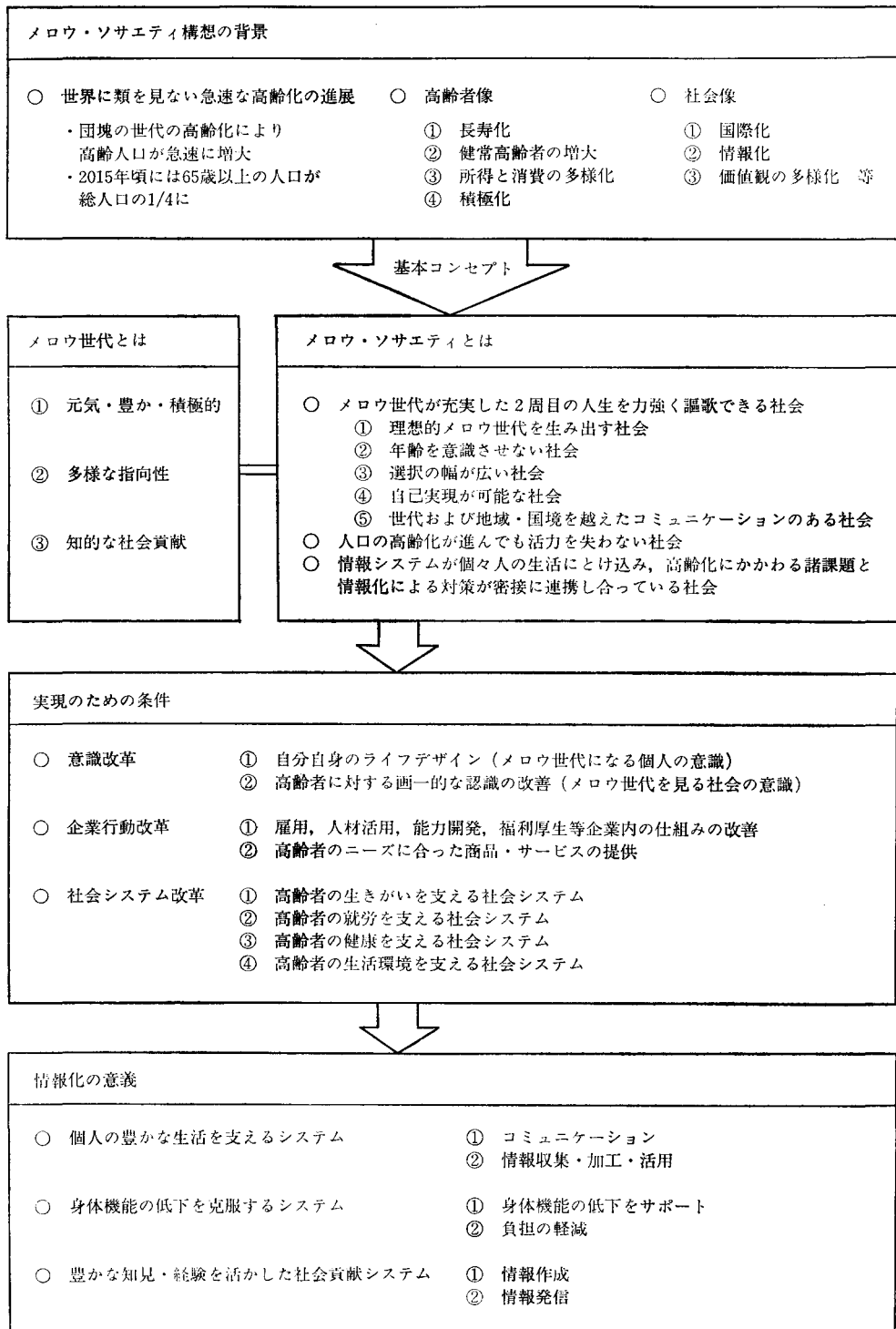


図 1 メロウ・ソサエティの基本コンセプト

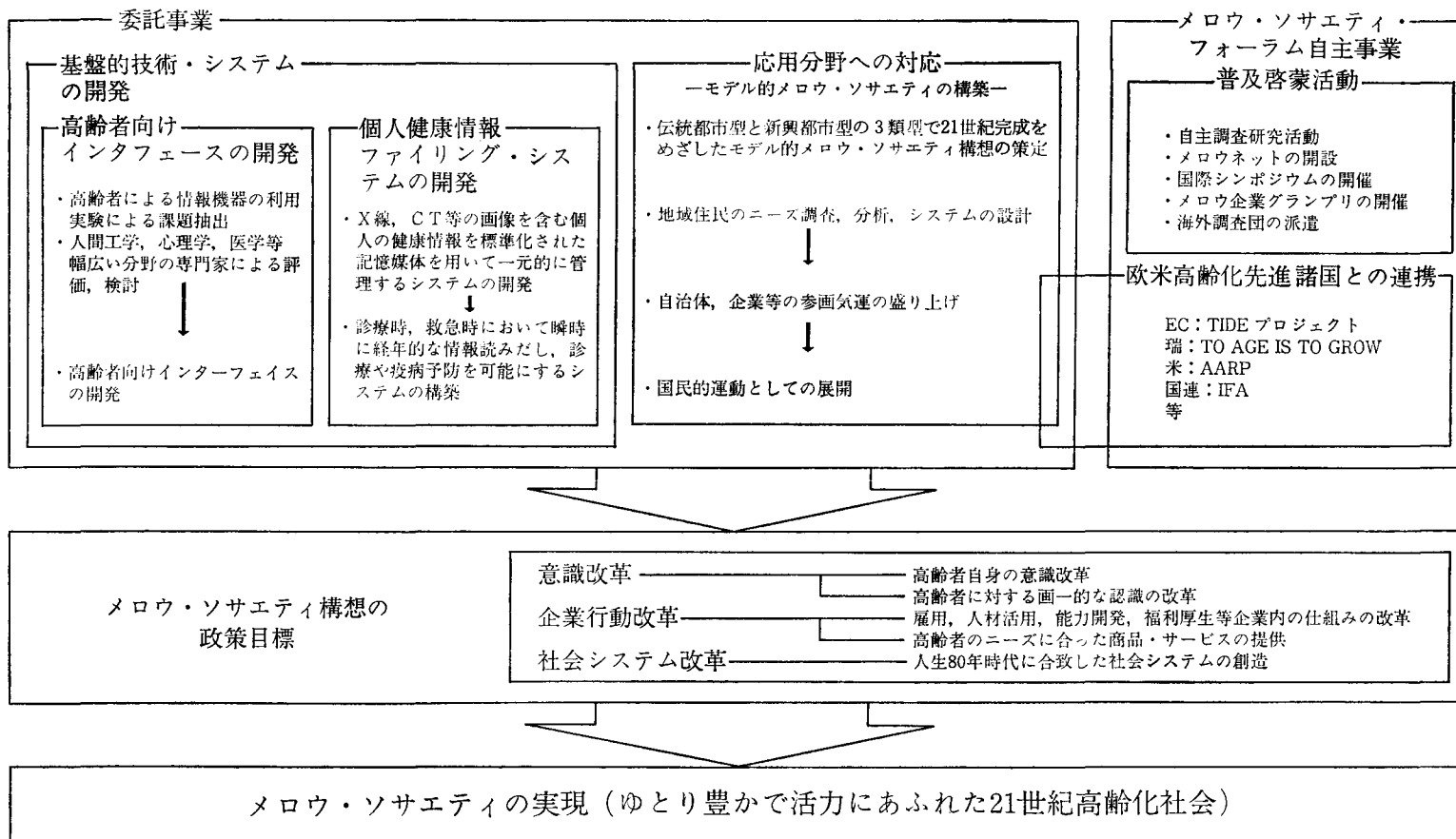


図2 平成4年度メロウ・ソサエティ構想の推進

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会。無断複写・複製・転載を禁ず。

社会に対する国際的対応，および普及啓蒙活動の充実を中心に構想の具体的推進を図っていく。以下に各々について詳しく述べる。(図2)

### (1) 通産省が高齢化対策をすすめるにあたっての体制づくり

今後，広範囲な高齢化社会対策をすすめるにあたり，一部局単独，または通産省単独で実施できる分野は少なく，省内外の推進体制を整備することが必要である。このため，省内に官房を中心に関係課により構成される「高齢化社会対策委員会」が設置され，検討を行なっている。

現在各課および各課所管の業界，個別プロジェクト，個別懇談会・審議会等でとりまかれている高齢化社会対策をとりまとめ，省内における一体的とりくみを推進してゆく。

また，民間企業等への働きかけの窓口として，メロウ・ソサエティ・フォーラムを活用することが考えられる。

### (2) 円熟社会(メロウ・ソサエティ)支援情報システムの開発

#### A. 基盤的技術・システムの開発

##### ① 高齢者向けインタフェースの開発

高齢者の生活のさまざまな場面に入ってくるのが予想される情報機器の望ましいインタフェースについて，ハードウェアやデータ交換の互換性といった観点も含め幅広く検討し，必要な研究開発を実施する。

このため，勤パーソナル情報環境協会において，調査研究体制の強化を図り，現状における高齢者の情報機器の利用実態について実験を含めた調査を実施する。さらに，高齢者の生活場面を想定し，そこに登場する情報機器について，高齢者の立場から必要とされる条件を高齢者の特性をふまえて人間工学的，心理学的，医学的等幅広い見地に立つ専門家を組織し，検討を行なう。

##### ② 個人健康情報フェイリング・システム

高齢者の積極的な社会参加の最大の障害となっている健康に対する不安を低減するため，個人の健康情報を一元的に管理し，診療，救急時にも過去の経年的な健康情報を瞬時に呼び出し，医療判断を支援するシステムの開発を，勤医療情報システム開発センターにおいて行なう。

このため，4年度から3カ年計画で，医療におけますます重要性が高まっている画像情報(X線，CT，MRI等)を含めた健康情報を大量に蓄積できる媒体として標準化された光磁気ディスク(ISAAC)を用いて，

画像の読み込み技術，病院情報システムとの連携を図るための技術，セキュリティ確保のための技術等を開発する。

当プロジェクトは，厚生省と共同して行なう。

#### B. 応用分野への対応

##### 一モデル的メロウ・ソサエティの構築一

モデル都市を選定し，その地域の実状に即した高齢者対応システムの提案，開発，導入を図り，21世紀をめざしてモデル的メロウ・ソサエティの構築に着手する。この構築を核として今後構想を国民運動として展開していく。

平成4年度には，たとえば新興都市型と伝統都市型の性格の異なった2種類の都市をモデル都市として選定し，21世紀完成をめざしたメロウ・ソサエティ構想の策定を行なうとともに，具体的なシステムを実際に指定都市において開発・導入実験を念頭においた地域住民に対するニーズの調査，分析，情報システムの設計等を実施する。

### (3) 高齢化社会に対する国際的対応

高齢化社会問題は，わが国にとどまらず，欧米諸国においても喫緊の課題であり，各国での経験をふまえて，情報交換，ノウハウの相互供与等により，高齢化社会対策について国際的な対応が形成される素地ができつつある。

【例】米：貧富差による不平等感の高まり

欧：過度な福祉政策の見直し

そのため，国際社会における高齢化社会問題解決のための議論をリードし，かつ各国協調体制の整備に貢献することによって本構想を積極的に展開していく。

具体的には，

- 国際化対応のための国内体制の整備
- 国際的対応の必要性についての対外的な発言・提言
- メロウ・ソサエティ構想における情報システム，ネットワークの研究成果を国際的に移転
- 政府間協議，情報交換の場の設定および共同プロジェクトの可能性検討
- メロウ・ソサエティ・フォーラムと欧米の民間団体との国際交流等の活動を行なう。

### (4) 普及啓蒙活動の充実

#### 1) 「ハイパー風土記」づくりの国民運動推進

地域の伝統・文化・自然等を地域住民みずからが簡便にマルチメディアで記録・交換するためのプロトタイプ

システムについて平成3年度に検討を行なう。平成4年度以降、こうした評価をふまえ、「国民総参加による風土記づくり」ともいふべき全国的な国民運動を盛り上げ、ハイパー風土記を通じた世代間コミュニケーションの拡大、地域アイデンティティの形成、高齢者のライフプラン作り等を支援する。

#### 2) 国際シンポジウムの開催

人口の高齢化について問題を共有する欧米先進国とともに開催する。平成4年2月にスウェーデンと行なった。

#### 3) メロウ企業グランプリの実施

ゆとり豊かで活力にあふれた高齢化社会の実現に貢献する企業の表彰を行なう。平成3年度中に第1回を開催する。

#### 4) EXPOの開催

高齢化社会に関係する諸団体に呼びかけ、高齢者参加のEXPOを開催することを検討する。

#### 5) メロウ・マークの認定

メロウ・ソサエティのコンセプトにもとづき「高齢者向けユースウェアのガイドライン」を策定し、該当するシステムの認定を行なうことを検討する。

### 4. おわりに

数年前に10%強であった65歳以上の高齢者人口比率は、今では12%を超えている。今後ともこの伸びが衰えない。欧米諸国の緩やかな高齢化に比べ、日本の高齢化はあまりに急激に進展する。21世紀初頭には、人口の4分の1が65歳以上の高齢者になるという状況下においては、従来の高齢者を弱者としてとらえる福祉的な観点の施策だけではなく、高齢者の積極的な社会参加を促進し、社会構造そのものの円滑な転身を図っていくような発想が必要とされてくるだろう。そのためには、個々人の意識の改革、産業界の意識改革など、さまざまな観点からの取り組みが必要になる。メロウ・ソサエティ構想も、新しい視点の高齢化社会対策として今後とも幅広く、積極的に推進を図ってゆきたい。

新時代のコンピュータ総合誌

# Computer Today

7月号/18日発売/定価930円

## sed,awk&perl

sed	大木敦雄
awk	小嶋隆一
perl	前田 薫

#### <連載>

Cで書くアルゴリズム	疋田輝雄
遺伝的アルゴリズム	和田健之介
証明とプログラムと	萩谷昌己
texinfo入門	高尾直弥

■ Computer Today ライブラリ最新刊

## 決定版DynaBook活用法

山本和明・小嶋隆一共著 定価2884円

月刊誌

## 数理科学

6月号/発売中/定価980円

## 応用カオス

カオス	合原一幸
カオスと同期	遠藤哲郎
光カオス	ピーター・デビス
カオスで味を測る	都甲 潔
カオスと制御	平井一正
最も簡単なカオスの力学系IFS	

徳永隆治・井田 孝

電子回路のカオスと区分線形解析	小室元政
カオスと計算	大石進一
カオスにニューロ・コンピュータ	井上政義
天気予報とカオス	木本昌秀
カオスと予測	松葉育雄
工学システムのカオスとソリトン	金野秀敏他

■ 最新刊 好評発売中

Cプログラマのための

## C++

I. ポール著/玉井 浩訳/A5/定価2884円

▶ 価格表示は、税込み価格となっています。

## サイエンス社

東京都千代田区神田須田町2-4 安部徳ビル  
電話 (03)3256-1091(代) 振替 東京7-2387